

平成23年度京都広報賞 知事賞など受賞作品の概要

<審査委員>

広報紙の部

吉崎 徹 氏（京都新聞社編集本部編集局ニュース編集部編成担当部長）

藤田 晶子氏（フリーエディター）

写真の部

山岡 正剛氏（日本写真家協会会員）

映像の部

松田 壽長氏（映像プロデューサー）

■広 報 紙

★市の部

【知事賞】京丹後市 10月号

特集「古都と京丹後」（3～11頁）は、市外から見た京丹後を「食」という誰でも共感できるテーマで綴っており、発想が素晴らしい。食品流通の抱える問題点も指摘するなど、奥行きのある記事になっている。動きのある写真を多用して、紙面に活気があり、他ページの記事も含め「ずっしりと読み応えのある1冊」と高評価を得た。

【会長賞】綾部市 3月号

レイアウトなどセンスの良さを端々に感じる作品。巻頭の地産地消特集のインタビュー記事など、手堅くまとめられた文章で、見出しの取り方も上手く、全体的に丁寧でわかりやすいと評価を得た。

★町村の部

【知事賞】大山崎町 9月号

巻頭の「特集 生きのびる」（2～7頁）はインパクトあるタイトルにはじまり、読者のアクションを引き出す説得力のある記事になっている。また、レイアウトなどセンスよく整理されており、読みやすい作品と高い評価を得た。

【会長賞】与謝野町 9月号

巻頭「京の豆っこ米」（2～5頁）特集は、地元の米生産の背景が丁寧に表現され、文章の流れもよく分かりやすい。町政懇談会Q&Aは現場の緊張した雰囲気が再現されている。全体を通して読みものと情報記事のバランスが良く、小さな記事も丁寧に作られていて好感度大。

■写 真

★1枚写真の部

【知事賞】与謝野町(和田直樹さん) 5月号表紙

全体の色調がとても美しく、背景のぼかし具合が少女の表情を引き立たせており、表紙として目をひく色合い・暖かさ・ぬくもりを感じる作品であると絶賛であった。

【会長賞】宮津市(小林保子さん) 5月号表紙

獅子と奏者の関係性など場の雰囲気が伝わり、全体の構図が良いと評価を得た。

★組写真の部

【知事賞】大山崎町(関美弥子さん) 12月号(4～5ページ)

全体の色調が整った見開きになり、イメージ写真を取り入れるなど国民文化祭の各会場の雰囲気が伝わる。下の黒帯に統一した顔写真とインタビューは上手くまとめてわかりやすいと高い評価を得た。

【会長賞】与謝野町(和田直樹さん・山口周作さん・井田拓磨さん) 12月号(2～3ページ)

全体に写真がシャープで美しい。黒地が写真を引き締め、特に1ページを使った金色の紋は、イメージ写真として効果的で非常に良いと評価。

【映 像】

【知事賞】南丹市 京都無形登録民俗文化財「田歌の神楽」(南丹市美山町田歌)

地元で伝わる伝統行事を真正面からとらえ、余計な演出を排除した正統派の記録映像。安定感のあるカメラワークで、全体構成も的確と高い評価を得た。

【会長賞】京丹波町「友好町双葉町復興への思い～須知高校 クッキー作りに思いを込めて～」

一粒の手作りクッキーに込められた高校生たちの思いと、送られた東北の避難生活者のお礼の手紙を現地取材も交え紹介したドキュメントタッチの作品。様々な支援がある中で「こころ」の絆を感じさせる温かな仕上がりで評価を得た。